

自然再生国際シンポジウム

平成14年9月17、18日の2日間、東商ホールで、玉井信行金沢大学教授を委員長とする「川の自然再生シンポジウム実行委員会」の主催により「川の自然再生」～第3回世界水フォーラムに向けて～と題する国際シンポジウムが開催された。

このシンポジウムでは、平成15年3月に開催される「第3回世界水フォーラム」のプレ会議として、各国の事例の紹介や自然再生における課題等が議論された。

1日目には、まず、玉井教授とラムサール条約流域イニシアティブ事務局代表のバリッシュ氏の対談が行われ、流域と川のつながり、流域の連続性重視の必要性、各国・各地域の連携の重要性が指摘された。

続いて事例紹介では、アメリカ合衆国のキシミー川、ミズーリ川における氾濫原の復元と管理の事例、ヨーロッパ最大規模の蛇行復元と氾濫原再生を行っているデンマークのスキヤーン川、オランダのライン川、韓国の慶安川、日本からは釧路湿原・標津川の取り組み事例などが紹介された。

2日目は、海外の発表者と「川の自然再生シンポジウム実行委員会」の委員等によるラウンドテーブルディスカッションが行われた。

「なぜ川の自然再生なのか」というテーマでは、治水お

研究第四部 主任研究員 北谷 啓幸

よび経済面での有効性、生物多様性保全の必要性などが指摘された。また、「自然再生における目標」のテーマでは、多様な生物の生息空間の機能再生、治水・利水機能の向上などが、「自然再生における課題の整理」のテーマでは、適応的・段階的取り組み、NPO等との計画段階からの連携、流域の土地利用などが挙げられた。

今後は、このシンポジウムの成果を「川の自然再生に関するガイドライン」(案)としてまとめ、「第3回世界水フォーラム」で提案していくものである。



ラウンドテーブルディスカッション

第5回河川環境展に出展して

「第5回河川環境展」が、

会期：平成14年11月26日(火)～29日(金)

会場：幕張メッセ・国際展示場3ホール

で開催されました。

この河川環境展は、河川環境の保全や復元に用いられる技術や市民の取り組みの最新の動向を展示するものです。すなわち、生物に配慮した川づくり、環境に配慮した災害復旧、健全な河川環境・水循環の確保、家庭生活と水質、川における余暇活動、川における体験学習、などの広い分野における新製品・新技術・新工法・情報・サービス等を一堂に展示しています。また、併設シンポジウムでは、「川の自然再生」をテーマに開催され、河川環境展実行委員会玉井委員長(金沢大学教授/東京大学名誉教授)が基調講演をされる他、パネルディスカッションでは自然再生事業を進めている国土交通省、農林水産省、環境省、地域住民の方々によって、自然再生およびそれに関わる流域のあり方などが総合的に議論されました。

当センターも、広報活動の一環として、出展ブースを設け、「自然再生」をテーマとするパネル展示を行うとともに

研究第一部 主任研究員 黒川 信敏

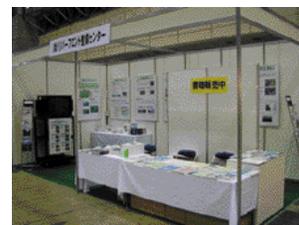
に、当センターで発行または編集している書籍の展示・販売等を行いました。

ご来場の皆様に、(財)リバーフロント整備センターの取り組みを広く知って頂くとともに、河川との関わりを考える良い機会になればと思います。

次回「河川環境展2003」は、2003年11月25日(火)～28日(金)に幕張メッセで開催される予定です。当センターも出展する予定であり、是非、この展示会に足を運ばれ、当センターブースにもお立ち寄り願えればと思います。



左：第5回河川環境展の全景



上：当センター出展ブース